

国際宇宙ステーション利用シンポジウム

新生JAXAが目指すもの



宇宙航空研究開発機構
理事長 奥村直樹
2014.1.31

日本の科学技術行政の方針変化

- 第4期科学技術基本計画(2011.8)
- 科学技術イノベーション総合戦略(2013.6)
 - JAXA法改正(2012.7)
 - 新たな宇宙基本計画(2013.1)

事業環境の変化

- 宇宙新興国の台頭
- 衛星情報の利用拡大
- 民間事業者の技術力向上

政策転換・事業環境の変化

新生JAXA の取り組み



宇宙基本計画 重点課題への対応

- ①安全保障・防災への貢献
- ②産業振興への貢献
- ③宇宙科学等のフロンティア

国の科学技術政策 への対応

- ImPACT、SIP等への積極的な提案、取り組み
- 政策的意義や社会課題に対応した「基軸プログラム」の創設

仕組み・業務方策の 見直し

- 最終受益者の課題を汲み入れた衛星開発利用
- きぼう利用方策の見直し、さらに国、民間利用を拡大

【これまで(Before)】

国際計画への参画により、効率的に欧米露に並ぶ有人宇宙技術を獲得

- 欧米露に並ぶ有人運用技術及び搭乗員関連技術を獲得、蓄積。
- 科学分野等の実験を行い、社会へ貢献できる有望分野を識別。
- 無人補給機「こうのとり」を通じ、先進宇宙技術の獲得と我が国の宇宙産業への貢献。



2009年7月に完成した我が国初の有人施設「きぼう」日本実験棟

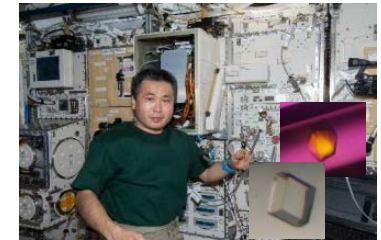
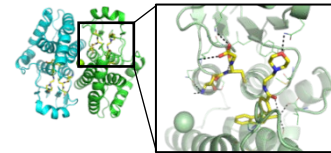
無人補給機「こうのとり」
2009年～
4回にわたる補給実績



【これから(After)】

① 国の戦略的な科学技術研究の場「National Lab」として活用促進

医療分野など国の戦略・最先端研究テーマに「場」を提供し、国の科学技術施策と連携した組織的な取組みで「きぼう」利用を促進。



② 民間企業の利用・新規参入の拡大

高品質タンパク質結晶生成実験など、民間企業の需要にあった、使いやすい新たな仕組みを構築、より参入を促進。

③ 将来の国際宇宙探査等に向けた戦略的な技術を獲得

国際競争力の高い宇宙技術(水再生技術、ロボティクス技術等)を獲得し貢献。